

中部地方整備局事業評価監視委員会（令和5年度第4回）

議 事 概 要

1. 日 時 令和5年12月22日（金）14:00～16:00

2. 場 所 KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

3. 出席者

○事業評価監視委員会委員

富永委員長、松本副委員長、朝日委員、大窪委員、能島委員
原島委員、山田委員、吉永委員

○中部地方整備局

佐藤局長、西尾副局長、佐藤副局長、企画部長、建政部長、
道路部長、港湾空港部長、営繕部長、用地部長、河川調査官

4. 議 事

1) 対象事業の説明・審議

(再評価)

【砂防事業】

木曾川水系直轄砂防事業

【港湾整備事業】

四日市港 霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業

名古屋港 ふ頭再編整備事業

【道路事業】

一般国道153号 豊田北バイパス

一般国道155号 豊田南バイパス

(事後評価)

【道路事業】

一般国道153号 伊南バイパス

5. 配布資料

- ・委員会開催資料（議事次第、委員名簿、出席者名簿、配席図、配付資料一覧）
- ・資料1 再評価に係る県知事等意見
- ・資料2 対応方針一覧表
- ・資料3 木曾川水系直轄砂防事業 説明資料
- ・資料4 四日市港 霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業 説明資料
- ・資料5 一括審議案件一覧
- ・資料6 名古屋港 ふ頭再編整備事業 説明資料
- ・資料7 一般国道153号 豊田北バイパス
一般国道155号 豊田南バイパス 説明資料
- ・資料8 一括審議案件に対する意見等について
- ・資料9 一般国道153号 伊南バイパス 説明資料
- ・資料10 再評価に係る資料【砂防事業】
- ・資料11 再評価に係る資料【港湾整備事業】
- ・資料12 再評価に係る資料【道路事業】
- ・資料13 事後評価に係る資料【道路事業】

6. 主な審議結果等

1) 再評価対応方針（原案）については以下のとおりとする。

【砂防事業】

木曾川水系直轄砂防事業 . . . 了承

【港湾整備事業】

四日市港 霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業 . . . 了承

名古屋港 ふ頭再編整備事業 . . . 了承

【道路事業】

一般国道153号 豊田北バイパス . . . 了承

一般国道155号 豊田南バイパス . . . 了承

2) 事後評価対応方針（案）については以下のとおりとする。

【道路事業】

一般国道153号 伊南バイパス . . . 了承

2) 委員会当日に委員より出された意見・質問及び回答

項目	意見・質問	回答
<p>(重点審議) 木曾川水系直轄砂防事業</p>	<p>基準改定に伴う施設配置計画の見直しについて、数値解析範囲をどこまで広げたのか。また、今回の改定で全て網羅されたのか。</p> <p>長期な事業で必要な事業と思っているが、30年後は人口がかなり減少し、居住地等の維持が不可能となる集落も出ることが想定される。自治体で30年後あるいはもっと中長期の集落の維持や撤退といった計画があるのか。また、自治体の計画と連動した当該事業となっているのか。</p> <p>長期の事業なので、フロー効果が生じ、地元建設業等も育成され、緊急時には助け合うといった好循環に繋がることを想定される。そういったところも認識しながら事業を進めているのか。</p> <p>重要なのは、地域事業者の育成、技術の伝承、雇用の確保。そうした地域経済という視点でも事業の効果があることを認識頂くとよい。</p>	<p>今回の改定で、数値解析の範囲を勾配10度となるところまで広げることになった。</p> <p>勾配10度の範囲であれば流域内の河川をかなり網羅的に把握できていると考えている。</p> <p>岐阜県中津川市は、居住誘導区域等を含んだ立地適正化計画を定めており、今後、人口減少となっても居住を誘導し地域経済を保つといった動きがある。土砂・洪水氾濫を抑止、解消する範囲に市の定める居住誘導区域も含まれている。こうした市町村のまちづくり政策とも歩調を合わせながら整備を進めていきたいと考えている。</p> <p>長野県の3町村は、まだこういった計画が指定されていないが、それぞれの考え方を伺いながらしっかりと連携を図って整備を進めて参りたい。</p> <p>ご指摘のとおり、地域の建設業とともに発展していくことが必要である。地域で仕事を進めていく上では、工夫をしながら地場の建設会社とともに一緒に事業を進めていけるよう取り組んでいる。</p>
<p>(重点審議) 四日市港 霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業</p>	<p>背後埋立地への土砂投入方法の変更について、事業採択後の環境影響評価に伴う調整により変更となったとあるが、当初計画時点でバージアンローダー船での揚土投入とすることができなかったのか。</p> <p>また、今後同様の事業の場合は変更計画の方式を利用していくという方向にあるのか。</p>	<p>当初も環境に配慮するため汚濁防止膜を設置しながら底開バージ船による埋立を想定していたが、環境影響評価に伴う関係者調整の中で、濁りの発生がより少ない工法にすべきという結論に至り、中仕切堤で完全に仕切った後に揚土投入する方式に変更している。</p> <p>環境に配慮すべき地域にある工事では、変更計画の方式のような工法を採用していく方向になると考えている。</p>

項目	意見・質問	回答
	<p>現在、コンテナ船の大型化による施設需要が増加しており、今後もさらに船型が大型化する傾向にあると認識している。コンテナ船の大型化傾向について事業着手時の状況を見ながら決定したものなのか、それとも、将来の変化を想定しながら、長期的な目で進めているものか。</p> <p>特に今回、資材高騰が大きく影響しており、他の代替案や、他事業から出てくる資材の流用などを考えていると思うが、その辺りの説明を補足いただきたい。</p> <p>完成自動車取扱台数の予測は、順調に伸びて49.6万台だが、産業界の見通しを含めたものか。</p> <p>EV化が進み、世界的に日本が劣勢と言われているが、取扱台数が伸びるのは、日本の産業構造にとって望ましく、ぜひ実現してほしいと思う。ただ、実現されない、他国への産業移転等までを考慮して港湾整備はできないため、このような推移の中で進めているという理解でよいか。</p>	<p>事業化前に長期的な計画である港湾計画を作るが、本事業のW81号岸壁はそこに既に位置付けており、以前から展開を計画していた。その意味で、最初からコンテナターミナルは沖側への拡張を考えていたが、完成自動車の取扱いも増えており、本事業によりふ頭の利用再編ができることになった。そういった社会情勢にも対応しているのが本事業であると捉えていただきたい。</p> <p>他の代替案について、石材をなるべく使わない断面を検討したが、鋼管杭を5列から6列に増やす上にさらに地盤改良が必要になる構造や、サンドコンパクションより高価なセメント改良といった地盤改良が必要なケーソン式の構造となり、経済比較をしても現在の断面が最適という結果となった。</p> <p>他事業から発生する資材の流用について、既に河川事業の河道掘削で発生する良質な砂を地盤改良に流用しているが、今後も利用できるものは調整をしていきたい。</p> <p>各企業にヒアリングをかけて、最新の状況をお聞きした上での推計結果である。</p> <p>そのとおり。</p>
<p>(一括審議) 名古屋港 ふ頭再編整備事業</p>	<p>完成自動車の将来需要推計が前回評価時に比べ下がっているが、これは、各企業の動向を反映させた結果と理解すればよいか。</p>	<p>そのとおり。</p>

項目	意見・質問	回答
	<p>中航路の浚渫を増やすという ことで、浚渫土砂の受入先と して、中部国際空港沖の新土砂 処分場で十分足りているのか。</p> <p>庄内川からの土砂流入によ り継続して浚渫土砂が出てく ることになるが、そういった受 入先も、色々な他事業と調整し て合理的に進むように計画し ているのか。</p>	<p>中部国際空港沖の新土砂処分場は まだ整備中のため、中航路の浚渫土 砂は、まずは完成自動車輸送の機能 強化をしている金城ふ頭の施設整備 で受入れるよう調整を図っている。</p> <p>新土砂処分場は名古屋港の機能強 化・維持のための施設なので、基本 的にはそこで浚渫土砂を受入れてい く予定。今回のように、他に有効活 用できるところがある場合は、調整 を図って事業を進めている。</p>
<p>(一括審議) 一般国道15 3号 豊田北 バイパス 一般国道15 5号 豊田南 バイパス</p>	<p>歩行者の安全を確保するた めに事業費が増加になったと いうことだが、当初の設計を変 更し、地域の方々の声を聞きな がら、地域にとって必要なイン フラを整備するための増額で あり、問題ないと考える。</p>	
<p>(事後評価審 査) 一般国道15 3号 伊南バ イパス</p>	<p>権限代行として国が事業を 進めたということなので、この 後の4車線化は長野県でも整 備が可能で、最初の2車線は技 術的に難しい工事であり、国の 力が必要だったという理解で よいか。</p> <p>今回、現道の国道153号の交 通量及び交通事故の減小、道路 空間の活用など、すごく望まし い効果が発現していると感じ る。一方で、通過交通が減った ことで賑わいがなくなったと 感じる方もいるかもしれない。 地元の声として、今回の開通に 際し、旧道の変化に対して否定 的な話はないか。</p>	<p>2車線の整備により、様々な知見 を得ることができた。その知見を長 野県と共有することで、長野県にお いても、今後、4車線化の事業が可 能ではないかと考えている。</p> <p>駒ヶ根市、飯島町にヒアリングを したところ、通過交通が減小する事 で、普段通っているスーパーに行き やすくなるなど、利便性が向上した という声も聞いている。</p> <p>また、夜間大型車が市街地を通っ ていたことで、騒音値が環境基準を 超過していたところ、交通がバイパ スに転換したことで夜間の騒音値も 基準値以下に収まっているというこ とで、生活がしやすくなったと地元 の自治体からは聞いている。</p>